

2025(令和7)年6月2日



令和6(2024)年度 学位記授与式 式辞
岩手保健医療大学 学長 濱中 喜代

●本日晴れて、岩手保健医療大学学位記授与式を迎えられた学部生77名、大学院生5名の皆様、誠にありがとうございます。岩手保健医療大学の教職員一同および在校生を代表して、心からお祝い申し上げます。また、卒業のこの日まで皆様を支え、励ましてこられたご家族やご親族の方々にも心からお祝いを申し上げます。

●新型コロナウイルス感染症も5類に移行し、以前よりは自由な大学生活、大学院生活を送れたのではないのでしょうか。学部生はこれまでに比べ、通常の実習に近い体制で臨地実習ができました。大学の教育課程をほぼ予定どおり実施することができたことは誠にありがたいことでした。

マスク着用は解禁にならず、不自由もあったことと思いますが、勉学に励み、国家試験という難関に挑み、卒業というこの日を迎えられましたことは、皆様の毎日の積み重ねの成果であり、その努力に敬意を表したいと思います。

●大学院生も授業はほぼ予定どおりできておりました。今年度は私も看護特別研究の指導の機会がありましたが、データ収集・分析・考察等の論文作成等においても大変努力をなさっておられました。修士論文作成を成し遂げられたことは大変意義深いことであり、今後に大きな力となることでしょう。

●学部生の皆様は進学する1名を除いて、この春から看護師・

保健師となり、職業人として歩み始めるスタートラインに立つこととなります。これまでは教わる立場でしたが、これからはチームの一員として仕事をしていくことになり、大きな責任が加わります。就職当初は特に、大変なことと思われるかもしれません。先輩たちも厳しい状況下で元気に活躍しておりますので、皆様も本学で学んだことを活かし、自分自身を活かし、自信をもって実践の場に臨んでほしいと思います。大学院生の皆様はこれまでのお仕事を継続する方が多いようです。皆様の未来が倅多いことを心から願っております。

●さて、本学で大切にしていることに「ケア・スピリット」があります。自ら進んでケアに向かう姿勢と定義しています。大学・大学院のなかで涵養：自然にしみこむように養成することを目指しておりますが、授業等を通して、皆様の内面に深く備わってきていると実感しております。特に4年生の臨床倫理や大学院の「臨床倫理特論」の授業では臨床体験を振り返り、丁寧に学ぶ機会がありました。ケア・スピリットの自己評価尺度の項目として①人間尊重、②共感的態度、③与益、④ケアの社会性、正義・公平性、⑤向上心、⑥自己効力感の6つがあります。

学部の皆様は「共感的態度」「人間尊重」の得点が高かったのですが、そのなかで自己効力感が低い方が数名いました。自己効力感は行動するうえでとても大切です。これから社会人として目標を達成していくためには、小さな成功体験が鍵となります。何とかやれそうと思えるように、日々チャレンジを積み重ねてほしいと思います。

●大学院生の皆様は個性があり、それぞれの異なった結果でした。その年によって特徴があることも興味深いと思います。

●相手の最善を考えて、ケアするためには、専門的な知識の裏付けと技術が必要です。「ケア・スピリット」は生涯かけて完成させていくものです。皆様の今後の看護実践の中でさらに深化し続けるものであり、また実践を支えるものにもなると思います。これからもどうぞ大切にしてください。

●また私は長い看護人生の中で「看護という行為は人のために行っているものであるにもかかわらず、最終的には自分に返ってくる、自分を看護して成長させてくれる」ということを実感して参りました。皆様もこのことを心に留めて、看護を実践することを通して、人としてさらに豊かに成長されることを心から願っています。

●本日皆様は卒業あるいは修了して本学の同窓生になります。同じ看護の道を進めていく仲間として、一緒に良い看護を目指して歩んで参りましょう。理想と現実の違いに直面するかもしれません。もし挫けそうになったら、いつでも声をかけてください。迷ったらいつでも戻ってきて相談してください。臨床に出たあとに、もっと勉強したいと思ったら大学院で学び直す方法があります。私も含めて本学の教職員一同がいつでも応援していることを忘れないでください。

●最後になりますが、ロシアのウクライナへの軍事侵攻は長く続いており、いまだ終結の見込みはありません。また昨年1月に起こった能登半島地震の被災地や2月に大船渡で起こった山林火災では、まだまだ避難している方が多く、復興の兆しが見えない状況です。紛争や自然災害では予備力の低い子ども、女性、老人、障がい者、病人が大きな被害を受けます。こういった人達を支え、援けることも私たち看護専門職者の使命であると思います。常に社会情勢に目を向けることを忘れず、社会の要請に対応できるよう、その時その時を人として看護専門職者として大切に生きてください。

●今後の皆様のご活躍をこころから祈念して、学長の式辞といたします。本日は誠にありがとうございます。🌸

令和6(2024)年度 卒業生 答辞

看護学部 卒業生代表 小林 璃央 さん



●春の訪れを感じるこの佳き日に、私たち5期生は無事に卒業の日を迎えることができました。本日は、私たちのためにこのような厳粛で温かい卒業式を挙行していただき、心より感謝申し上げます。また、ご多忙のなかご臨席くださいましたご来賓の皆様、学長をはじめ諸先生方、そして最後まで支えてくださった保護者の皆様に、卒業生一同、

深く御礼申し上げます。先ほどは、学長の式辞、ご来賓の皆様からの温かい祝辞と励ましのお言葉を賜りましたことに、重ねて感謝申し上げます。

●振り返れば、4年前、私たちは期待と不安を胸に看護学生として歩み始めました。初めて触れる専門的な知識や技術の習得に戸惑いながらも、先生方の熱心なご指導のもと、一歩ずつ学びを深めていきました。特に臨地実習では、教科書では学ぶことのできない患者さんの思いや、ご家族の気持ちに触れる貴重な経験をさせていただきました。

自分の未熟さを痛感し、理想と現実のギャップに悩むこともありました。しかし、そんな中でも患者さんからの「ありがとう」という言葉や、ふと見せてくださる穏やかな笑顔に励まされ、看護の持つ温かさや責任の重さを実感しました。また、自分の小さな働きかけが、誰かの安心や安らぎにつながるのだと実感した時、看護の本質を改めて考えることができました。友人と励まし合いながら技術練習を重ね、患者さん一人ひとりに寄り添うことの大切さを学んだ日々は、私たちにとってかけがえのない時間となりました。

●そして、最後の関門である国家試験。焦りや不安と闘いながらも、仲間とともに乗り越えた日々は決して忘れません。先生方の親身なご指導、家族の支えがあったからこそ、私たちはここまで歩んでくることができました。本当に多くの方々を支えられた4年間でした。

●いよいよ私たちは、それぞれの道を歩み始めます。これからは、学んできた知識や技術を活かし、看護師として、また保健師や助産師として、社会に貢献していく責任を担います。決して平坦な道ばかりではないかもしれませんが、岩手保健医療大学で学んだこと、共に励まし合った仲間との絆、

そして「人に寄り添う看護の精神」は、これから先の私たちの支えとなることでしょう。自己研鑽を怠らず、一人ひとりが自分の信じる看護を実践し、地域や社会に貢献できる保健医療人として成長していきたいと思えます。

●最後になりましたが、今日まで熱心にご指導くださった先生方、快く実習を受け入れ指導してくださった医療機関の皆様、そしてどんな時も支えてくれた家族に、心より感謝申し上げます。また、岩手保健医療大学のさらなる発展を心よりお祈り申し上げます。🌸

令和6(2024)年度 修了生 答辞

看護学研究科 修了生代表 植木 葉子 さん



●令和6年度岩手保健医療大学学位記授与式にあたり、看護学研究科修了生を代表してここに御礼と御挨拶を申し上げます。

●本日は、学長濱中喜代先生をはじめとした教職員の皆様、御来賓の皆様のご臨席のもとでこのような盛大な学位記授与式を催していただきましたこと、修了生一同、厚く御礼申し上げます。

●私たちは、それぞれが職務を通じて抱いた疑問に関する研究に取り組むために、本学の看護学研究科に入学いたしました。修了までの期間を存分に使って、自らの看護研究の問いと向き合い、探究して参りました。私は医療の場において、看護管理者がどのように臨床現場で起きている現象と向き合い、役割を發揮しているのかを明らかにすべく、看護師長に焦点をあてた研究を行いました。研究に参加してくださった看護師長の皆様から貴重なお話を伺ったことで、研究をやり遂げ、成果を見出すという決意をもって、論文作成と向き合うことができました。

今後は、研究によって得られた知見を用いて、看護の現場がさらに良いものになるよう、看護管理者のひとりとして尽力していきたいと強く感じております。研究を行う過程で、看護管理学に精通した先生方や看護研究において高度な学識をもつ多くの先生方にご教授いただき、学び知りえる楽しさや新たな知見を得る喜びを実感いたしました。先生方が働きながら研究をされる私たちに寄り添い、貴重な時間を調整して御指導くださったことに、心より感謝申し上げます。

私自身も、人を育て、導く過程において、惜しみなく心を配ることができるとなるよう、さらに努力してまいります。

●今日、私たちは大学院を修了し、それぞれが大切にしている保健・医療・福祉における職務を遂行しながら、研究者としての一歩を踏み出すこととなります。新たな問いに向き合う時、本学で学んだケア・スピリットをもって、対象となる方の最善を考え保健医療を提供することができるよう推進してまいります。

●最後に、これまで私たちを励まし、導いてくださった諸先生方、学びの環境を整え応援してくださった大学職員の皆様、支えてくれた家族に、修了生一同、心より感謝申し上げますと共に、皆様の御健康と、岩手保健医療大学の益々の御発展を祈念いたしまして答辞とさせていただきます。🌸

